

補 論

2014年2月17日 公開

第9章 国際要素移動

Web 資料 9-2 多国籍企業の存在理由について

従来、企業の多国籍化を説明する視点としては、J. H. ダニングによる OLI 理論が多く用いられてきた。“OLI”の O は所有(ownership), L は立地(location), I は内部化(internalization)であり、OLI 理論はこの3点の優位性がそろった企業が多国籍化するというものである。複数の条件を組み合わせていることから、折衷理論とも呼ばれている。

本書では、OLI 理論は説明しなかった。これは、現在の国際経済学の研究では OLI の個々の要因について理論・実証研究が進展し、3点を折衷的に説明する意義は薄れていると筆者が判断したことによる。

代わって、第3節「多国籍企業」内では、多国籍企業が存在する理由を立地と内部化という2つの視点から説明した。これは、「1つの企業が複数の国で活動を行う」という多国籍企業の存在理由を、「なぜ1つの企業が複数の国で活動を行うのか」と「なぜ複数の国での活動が1つの企業によって行われるのか」という2つの問いから直接考察できるからである。前者の問いは立地の問題、後者の問いは内部化の問題である。立地と内部化はという言葉は OLI 理論と同じであるが、それが含む要素は当然異なる。